

図書館サポーターズだより


 明日に吹く風

新年明けましておめでとうございます。図書館は特製福袋やポイントキャンペーン等、企画が盛りだくさんです。プレゼントもあるので、楽しく利用しながら知識を広げていく場としてご利用くださいね。

～図書館サポーター推薦図書～

『アドラー心理学』：八巻 秀 著 (146.1 || A16)

あなたはアドラーという人物を知っていますか？有名な心理学者で、「個人心理学」を提唱した人です。例えば、器官劣等性、共同体感覚など…って、そんな風に言われてもわかりにくいですよね。関係する有名な著書に「嫌われる勇気」があり、耳にするとパッと思い浮かぶ方もいるのではないのでしょうか？例えば、消極的な自分、怒りっぽい自分…。そんな自分の感情をコントロールできるようになるのってとても難しいことです。しかし、この本はそんなアドラーの考えた“自分を変える心理学”、いわゆる「アドラー心理学」を用いて、そんな自分を変えられる(かもしれない)方法が心理学の視点から分かりやすく書かれています。またマンガを用いてさらに読みやすく、心理学に興味がある方、今の自分から抜け出したい方にお勧めの一冊です。

(N・Y)

『謎のアジア納豆：そして帰ってきた「日本納豆」』：高野 秀行 著 (383.82 || Ta47)

そういえば暫く納豆を食べてない。。この本を読んだ後に納豆が食べたくなると思います。高野さんを知ったのは「クレイジージャーニー」という番組。サル脳ミソを食べたり、阿片を吸っていた…。超クレイジー(笑) そんな彼が追求するのが納豆!? 少々気が抜けてしまいます。食に関する本は、大体がいかに美味しそうに食べ物を書くかですが、高野さんは違います。ただただ納豆を求め世界を飛び回り、世界の納豆をひたすら食べ巡るのです。納豆を食す部族に混じり生活をし、ついには、自ら納豆づくりを始めてしまう徹底ぶり。ところで納豆といえば水戸。本書にも度々登場するので嬉しくなります。しかし意外な歴史もあったのです。水戸の納豆の歴史、そして高野さんの「納豆に対する一途な思い」にピュアな心を忘れない大切さを学んでほしいと思います。

(N・S)



『ペンギン・ハイウェイ』：森見 登美彦 著 (913.6 || Mo54)

主人公は、小学4年生のアオヤマ君。彼はとても研究熱心で、常に自分の課題を見つけて、研究に没頭しています。ある日、いつもと変わらない住み慣れた町で不思議な現象が起こります。それは、街中に突然ペンギンが出没するというもの。この謎を解くためにアオヤマ君は様々な角度から考察を重ねていきます。小学生ならではの考え方や、小学生にしては少し大人びている彼の姿を見ていくうちに、自分の小学生時代を思い出すはず。また、個性豊かな登場人物たちが物語をより面白くし、そしてどこか懐かしさを感じさせます。ちなみに、タイトルの「ペンギン・ハイウェイ」とは、ペンギンたちが海から陸に上がる時に決まったルートという意味です。読み進めていくうちに、もうひとつのペンギン・ハイウェイの意味がきっと分かるでしょう。

(Y・S)

* 図書はメインカウンター脇にあります。ご利用ください。